

平成28年度資産運用状況について

林業退職金共済事業等勘定 給付経理

資産運用に当たっては、中小企業退職金共済法及び関係省令・告示並びに[運用の基本方針](#)に則り実施いたしました。林退共制度の安定的な運営及び健全性の向上に必要な運用収益を確保するため、合同して運用することができる資産配分で策定した[基本ポートフォリオ](#)により運用を実施いたしました。

平成28年度の資産運用は、自家運用では、金利が低迷を続け利回りが低下しました。委託運用では、先進国の緩やかな景気回復に加え、米トランプ新政権の経済政策への期待の高まり等から、内外株式市況が大きく上昇したため、内外株式の収益が大幅なプラスとなり収益を確保しました。

平成28年度末の運用資産残高は144億92百万円となり、当期の運用収益は2億95百万円（運用収入が2億95百万円、うち金銭信託評価益は2億33百万円）、決算運用利回りは2.10%となりました。

なお、当期総利益は1億35百万円、累積欠損金は7億76百万円を計上いたしました。

資産運用の内訳としては、[自家運用](#)は、期末運用資産残高93億14百万円、運用収益63百万円、決算運用利回りは0.69%となりました。

[委託運用](#)は、期末運用資産残高51億78百万円、運用収益2億33百万円（費用控除後）、決算運用利回りは4.70%となりました。

委託運用のうち金銭信託に係るパフォーマンスは、資産別では、国内債券・国内株式・外国債券は[ベンチマーク](#)を上回り、外国株式はベンチマークを下回りました。また、資産合計では、基本ポートフォリオに定める各資産の資産配分で加重した超過収益率の合計が0.62%となりました。

資産運用状況

➤平成28年度の資産運用状況は、下表のとおりです。

(単位：百万円)

運用の方法等			資産額	構成比	運用収入 ①	運用費用 ②	運用収益 ①－②	決算運用 利回り	
自 家 運 用	有 価 証 券	国債	1,344	9.27%	6	-	6	0.83%	
		政府保証債	5,792	39.96%	55	-	55	0.91%	
		金融債	700	4.83%	2	-	2	0.23%	
		計	7,836	54.07%	63	-	63	0.83%	
	預 金	短期運用	-	-	-	-	-	-	
		普通預金	1,478	10.20%	-	-	-	-	
		計	1,478	10.20%	-	-	-	-	
	計		9,314 <9,130>	64.27%	63	-	63	0.69%	
	委 託 運 用	金 銭 信 託	指定・特定金銭信託	5,017	34.62%	234	-	234	4.86%
			新団体生存保険	162	1.12%	△1	-	△1	△1.06%
計			5,178 <4,946>	35.73%	233	-	233	4.70%	
合 計		14,492 <14,076>	100.00%	295	-	295	2.10%		

- (注) 1. 資産額の<>内の金額は、平均残高である。
 2. 決算運用利回りは、運用収益を平均残高で除した数値である。
 3. 金銭信託の資産額及び運用収入は、合同運用の全体額を総口数で除して求めた額に林退共資産の保有口数を乗じて算出した額である。
 4. 単位未満は四捨五入しているため、内訳と計が一致しないことがある。

運用収益及び決算運用利回りの推移

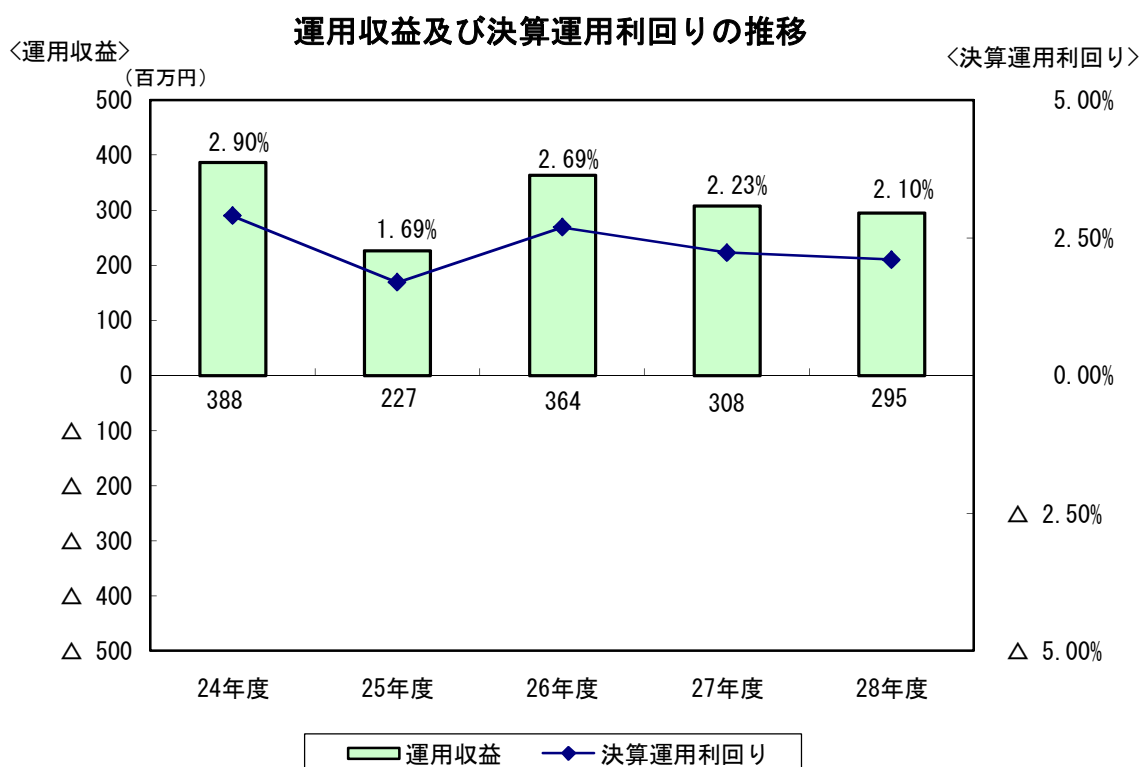
＞過去5年間の運用収益及び決算運用利回りの推移は下表のとおりです。

(単位：百万円)

運用の方法等		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
自家運用	有価証券	110	108	105	94	63
	預金	0	0	0	0	0
	計	110	108	105	94	63
委託運用	金銭信託	275	119	260	215	233
	生命保険資産	3	0	-	-	-
	有価証券信託	0	-	-	-	-
	計	278	119	260	215	233
運用収益の合計		388	227	364	308	295

決算運用利回り	2.90%	1.69%	2.69%	2.23%	2.10%
---------	-------	-------	-------	-------	-------

- (注) 1. 運用収益は費用控除後の額である。
 2. 平成28年度の金銭信託の運用収益は、合同運用の全体額を総口数で除して求めた額に林退共資産の保有口数を乗じて算出した額である。
 3. 単位未満は四捨五入しているため、内訳と計が一致しないことがある。



自家運用資産の構成状況

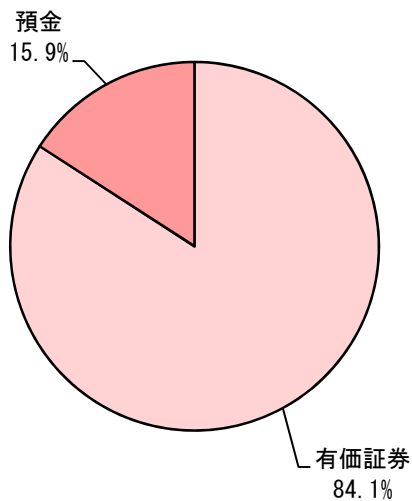
➤ **自家運用**は、元本の償還や利払いが確実な政府保証債を中心に運用し、平成28年度末の資産額は93億14百万円で、政府保証債の割合は62.2%となっています。

(単位：百万円)

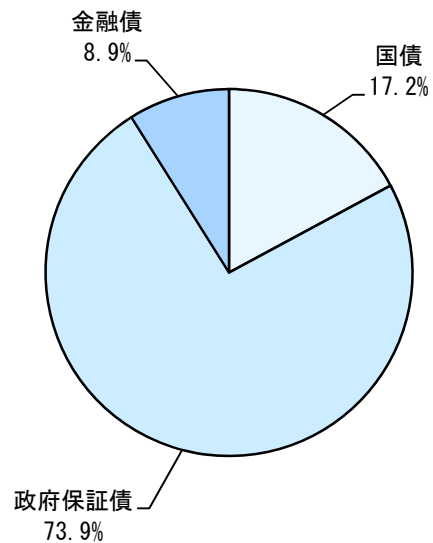
運用の方法等		資産額	構成比	
			有価証券構成比	
自家 運用 有 価 証 券	国債	1,344	14.4%	17.2%
	政府保証債	5,792	62.2%	73.9%
	金融債	700	7.5%	8.9%
	計	7,836	84.1%	100.0%
自家 運用 預 金	短期運用	-	-	
	普通預金	1,478	15.9%	
	計	1,478	15.9%	
合計		9,314	100.0%	

(注) 単位未満は四捨五入しているため、内訳と計が一致しないことがある。

自家運用構成比



有価証券構成比



委託運用資産の構成状況

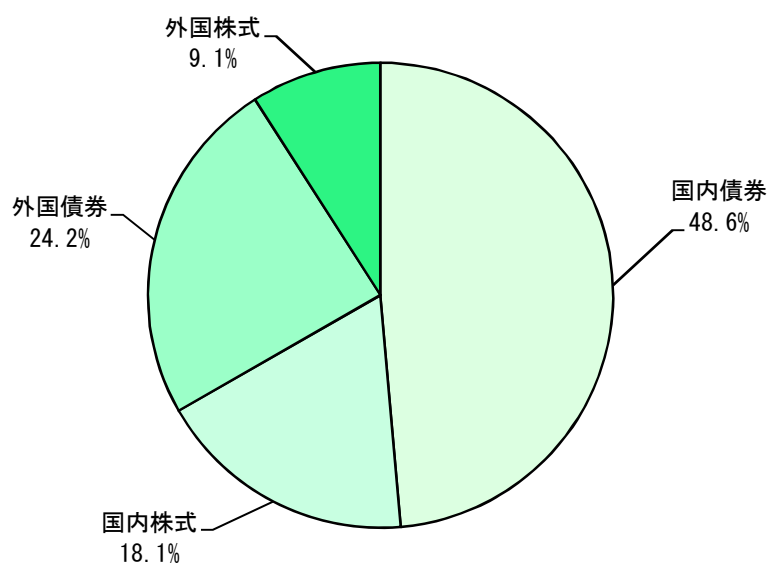
➤平成28年度末の委託運用のうち、金銭信託は、銀行(4社)、投資顧問会社(13社)及び生命保険会社(2社)に運用を委託し、資産額は51億78百万円となっています。

(単位：百万円)

運用の方法等			資産額	金銭信託 構成比
委 託 運 用	金 銭 信 託	国内債券	2,517	48.6%
		国内株式	938	18.1%
		外国債券	1,253	24.2%
		外国株式	471	9.1%
		合計	5,178	100.0%

- (注) 1. 金銭信託の資産額は、合同運用の全体額を総口数で除して求めた額に林退共資産の保有口数を乗じて算出した額である。
2. 単位未満は四捨五入しているため、内訳と計が一致しないことがある。

金銭信託構成比



金 銭 信 託 の 収 益 率

>平成28年度は、委託運用資産のうち金銭信託の時間加重収益率は、資産別にみると国内債券・国内株式・外国債券はベンチマークを上回り、外国株式はベンチマークを下回りました。
 また、時間加重収益率の資産合計は4.77%、基本ポートフォリオに定める各資産の資産配分で加重した超過収益率の合計は0.62%となりました。

資産区分		時間加重収益率	ベンチマーク	超過収益率
金 銭 信 託	国 内 債 券	△1.04%	△1.15%	0.11%
	国 内 株 式	15.49%	14.69%	0.80%
	外 国 債 券	△1.89%	△4.15%	2.26%
	外 国 株 式	14.09%	14.51%	△0.41%
	合 計	4.77%	-	0.62%

- (注) 1. 超過収益率の合計は、基本ポートフォリオに定める各資産の資産配分で加重した合計値である。
 2. 基本ポートフォリオ改定に伴い、平成29年2月1日に外国債券のベンチマークを為替ヘッジ付きの指数に変更した。収益率の差+2.26%のうち、為替ヘッジを平成28年12月末に先行して実施した影響+2.04%が平成29年1月に発生している。

【時間加重収益率】

- ・キャッシュフローが発生するごとに期間（時間）を区切り、各期間ごとに収益率を計算し、最後に複数の期間ごとの収益率を掛け合わせる（加重）ことで求めた時価ベースの収益率である。

【ベンチマーク】

- ・運用成果を測るための基準となるもの。運用機関がどれだけ収益率をあげたかという絶対的な判断ではなく、市場に対してどうであったかという相対的な判断（ベンチマーク評価）をするときの基準値となる。

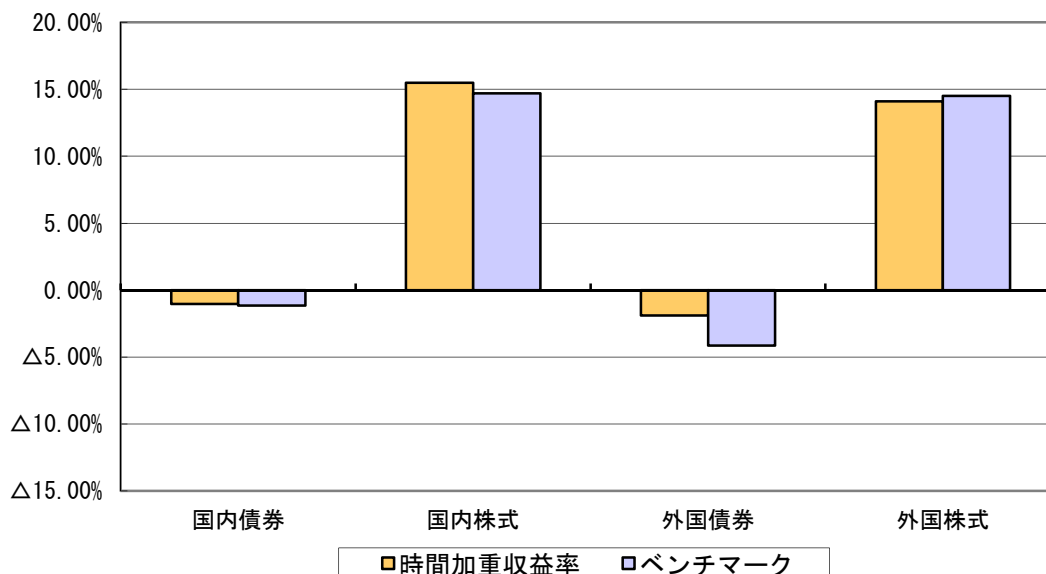
国内債券：[NOMURAボンド・パフォーマンス・インデックス（総合）](#)

国内株式：[TOPIX\(配当込み\)](#)

外国債券：[シティ世界国債インデックス（日本を除く、円ヘッジ・円ベース）](#)

外国株式：[MSCI KOKUSAI（円ベース、配当込み、GROSS）](#)

金 銭 信 託 の 収 益 率



運用資産の構成状況

＞平成28年度末の資産構成状況は、[基本ポートフォリオ](#)に定める合同して運用した資産配分である。

(単位：百万円)

資産区分	基本ポートフォリオ	乖離許容幅	資産額	資産構成比	乖離状況
国内債券	82.3%	-	11,831	81.6%	-
国内株式	6.2%	-	938	6.5%	-
外国債券	8.6%	-	1,253	8.6%	-
外国株式	2.9%	-	471	3.2%	-
合計	100.0%	-	14,492	100.0%	-

- (注)
1. 国内債券には、預金が含まれている。
 2. この基本ポートフォリオは合同して運用することができることを前提とするため、乖離許容幅を定めていない。
 3. 金銭信託の資産額は、合同運用の全体額を総口数で除して求めた額に林退共資産の保有口数を乗じて算出した額である。
 4. 単位未満は四捨五入しているため、内訳と計が一致しないことがある。

資産構成比

